

平成21年度 学校自己評価システムシート (県立深谷第一高等学校)

目指す学校像	1 生徒一人一人の進路実現を図るため、学力の向上と大学等への進学を目指した学校 2 部活動や学校行事等を通して、自主・自立の態度を養い、豊かな人間性や健やかな心身を育む学校 3 生徒・保護者や地域の信頼と期待に応える学校
重点目標	1 生徒の学力を伸ばし、大学進学をより一層推進する。 2 部活動や学校行事を一層充実させるとともに、規律ある行動をとれる生徒を育成する。 3 学校公開、貢献活動等をより一層推進し、開かれた学校をつくる。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	7名
	生徒	5名
	事務局(教職員)	3名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度 次年度への課題と改善策
1	授業には概ね真面目に取り組んでいるが、家庭学習の習慣が身につけていない生徒が多い。	授業改善と家庭学習の定着	①チャイム着席徹底など授業重視の態度育成 ②家庭学習定着指導 ③授業アンケートの改善と活用 ④授業公開週間設定	①年度末に徹底状況確認。 ②指導を毎学期実施。昨年度より家庭学習時間増。 ③年2回実施。アンケート結果を職員研修で活用。 ④外部公開日前後に実施。	①86%の生徒がチャイム着席を心掛けるなど、概ね徹底されている。 ②家庭学習をほとんどしない者が2・3年生は昨年度並み、1年生は大幅減。 ③実施した。 ④実施した。	B 家庭学習をする生徒がわずかながら増えており、指導の成果が現れはじめているが、依然として半数以上の生徒は家庭学習をほとんどしない。1年生の早い段階からの習慣づけと日常的指導をさらに強化するとともに、保護者との連携も必要。
1	自分への自信や進路に対する欲がやや足りない生徒が多い。高い目標にもチャレンジできる自信をつけさせることが課題である。	大学進学指導	①「進路の手引き」の改善 ②ガイダンスの計画的実施 ③組織的な進学補習実施 ④進路資料室及び進路相談体制の充実 ⑤保護者向け進路行事の改善	①本校生徒の実態により合わせた改訂。 ②分野別ガイダンス3回以上のほか、先輩の進路体験を聞く機会等。 ③5教科で計10講座以上開設。 ④資料室整備状況と担当教員の常駐。 ⑤参加者アンケート。	①内容を精査し、レイアウト変更や文言の整理を行って生徒がより理解しやすいものに改訂した。 ②進路体験発表等を含めて10回程度のガイダンスを実施。 ③21講座開講。 ④実施した。 ⑤アンケートで「良かった」と回答した保護者は大学見学会100%、進路講演会88%。	B 推薦入試やAO入試では十分な成果が得られており、就職についても厳しい情勢の中で健闘している。一方で一般入試対策については、さらに改善の余地がある。 生徒や保護者が高い目標を持てるよう、進路の手引きやガイダンス等による啓発を今後も継続してゆく。
2	部活動や学校行事等に熱心に取り組む生徒は多いが、学校中心の生活態度になっていない生徒も一部に見られる。	部活動等の充実と規律ある生活態度の育成	①部活動加入指導 ②運動部員に救急救命法講習 ③外部指導者の活用 ④携帯電話の指導 ⑤アルバイトの指導 ⑥服装等の指導	①1年生全員加入。2学期以降の定着率向上。 ②夏季休業前に実施。 ③活用実績向上。 ④規程の整備と実施。 ⑤無断アルバイトをゼロに。 ⑥各学年ごとに年3回以上実施。	①2学期の加入率79%(昨年75%)。1年生91%(昨年73%)。 ②運動部生徒35名が修了認定。職員も54名受講。 ③外部指導者のいる部は3つ。昨年度と変わりなかった。 ④規程を定めて指導した。 ⑤許可制を徹底したが、まだ無断の者も若干いると思われる。 ⑥実施した。概ね良好な状況。	A 全体的には、問題行動も少なく落ち着いており、頭髪・服装等も良好な状況を保っている。 部活動加入率はやや改善されたが、恒常的な活動が見られない者も少なくない。また、運動部員が減少傾向にある。 アルバイトについては、年度ごとに内容等を確認しながら許可する手続きを今後も徹底する。
3	保護者、地域、中学生の本校に対する期待は高い。	開かれた学校づくり	①ホームページの改善 ②地域のイベントやボランティア活動等への生徒参加 ③校内外における学校説明会等実施	①毎月1回以上の更新。 ②参加生徒数増。 ③年20回以上実施。	①改善を実施し、98回更新(4月～12月)。 ②ボランティア参加数は例年並みにとどまったが、家庭部の交通安全キャンペーンがマスコミに取り上げられるなど、地道な活動が地域に認知されてきている。 ③体験入学(2回)と入試説明会の他に中3生徒・保護者向け24回、中2生徒上級学校訪問17回。	A 本校への入学希望者増加に伴って、中学校や塾での説明会等への派遣依頼が年々増えている。ホームページも充実してきて、十分な情報提供ができるようになった。 広報部や教務部を中心に、今後もPR活動の充実を図ってゆく。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成22年 2月 9日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
◇家庭学習には保護者の協力も必要。 ◇部活動をやっていると家庭学習時間を十分に確保するのは難しいから、毎日6時間の授業を真剣に受けることがとても大切。 ◇宿題・小テスト等の工夫や達成感を感じさせる授業など、やる気を起こさせる取組を続けてほしい。 ◇授業公開は生徒にとっても良い刺激になる。保護者が参観しやすいよう改善を。	
◇ガイダンスの充実や補習などの取組は高く評価できる。 ◇将来の職業や社会参画を意識した進路決定を促したい。 ◇先輩からのアドバイスはとても参考になる。様々な進学先の先輩の話聞く機会をたくさん設けてほしい。 ◇保護者向けの進路行事には関心が高い。生徒向けにはどんな指導をしているかも保護者に知らせてほしい。	
◇部活動が盛んなことが、中学生に人気の理由の一つになっている。放課後に聞こえる元気な声やランニングしている姿を見て、地域住民も本校に好感を持っている。 ◇新入生の仮入部制度を改善し、よくわからないまま入部してすぐ退部してしまう生徒を減らしたい。 ◇服装のみだれが目立つ生徒もいる。もっと厳しく指導してもいい。 ◇家庭の事情等やむを得ない場合を除き、アルバイトはするべきでない。その時間を勉強や部活動に使えば将来が違ってくる。	
◇ホームページへの関心は高い。頻繁に更新するなど努力されていて良い。 ◇ホームページに生徒の声も反映させてほしい。 ◇学校説明会で在校生が中学生と話す機会があるといい。 ◇中学校等へもよく出向いている。 ◇回覧板の活用など、一般市民にももっとよく知ってもらえる工夫を。 ◇本校らしい特色を出せるとなるといい。	